

## つながり

金沢大学附属中学校 三年 杉本 菜々

二〇一一年三月十一日、東日本大震災が起きました。

私の住んでいる地域は大きな被害も受けず家族も友達もみんな無事でした。

しかし、東北地方などでは多くの被害を受けていました。ニュースなどでその光景をまのあたりにしました。とても、苦しい気持ちになりました。

地震が起きて3日後、卒業旅行で家族とアメリカに行きました。とても、モヤモヤとした気持ちのまま、アメリカに着きました。

アメリカのホテルで見たニュースを今でも覚えています。津波の様子、地震が

起きている途中の様子、くり返し放送されている映像。その映像は今でも私の脳裏に焼きついています。

私はアメリカの友達に連れられて、教会に行きました。教会では、東日本大震災のお祈りをしていました。私はその時、心がとても温かくなりました。教会に集まっている人たちに地震の様子について聞かれました。アメリカにいる私には地震についてのことを伝えることとお祈りすることが今、やるべきこと、できることだと思いました。国は違っても、その場にいると家族といるような心と体の温かさや心のつながりを感じました。

日本に帰ってからも、東日本大震災に対してのチャリティーが外国で行われていることを知りました。例えば、レディー・ガガさんはチャリティーグッズを作り、ネットで販売し、そのお金を寄付するなどいうことを行っていました。他にも多くの国の人たちが支援をしてくれていました。私も、少しでも役に立てたらという思いで募金をしました。この瞬間、一つの世界というものに絆が生まれた気がしました。

それから3年がたちました。

私たち家族はまた、アメリカに行きました。今回も、友達と一緒に教会に行き

ました。教会では3年前に会った仲間たちと再会しました。地震から3年たち、だいぶ復興に近づいてきている二〇一三年、また、あたたかさを感じました。今の日本は大丈夫？などと、地震について心配してくれていました。3年が過ぎても、他の国の地震のことを心配してくれていて、昔は敵だったけど今はとても親切にしてくれて、なんて心が広いのだろう、なんて、優しい国なのだろうと感じました。と、同時に、世界っていいなあ。つながるっていいなあ。と感じました。そして、いつかは、アメリカだけでなく世界の人たちや、復興に協力してくれた人たちに恩返しをしたいです。

私は、もつともつと勉強し、英語を駆使し、国境を越えてつながり、一つの世界というまとまりをつくっていききたいです。

今、世界の人々が幸せへと近づいていくことが私の一番の願いです。